



2012年度ポケット・ゼミと全学共通科目

ジェンダーや性差についての学生の知識・理解を深めるために、平成24年度も自然科学と人文・社会科学の両面から3つの講義を行います。

ポケット・ゼミ「ジェンダーと科学」は、新入生のみを対象とし、ディスカッションに重点をおいた内容です。

■ ポケットゼミ「ジェンダーと科学」

1	4月17日	伊藤 公雄 (文学研究科)	ポケゼミの目的について、ジェンダー研究の歴史と意義
2	4月24日	奥田 昇 (生態学研究センター)	動物の性差と性淘汰
3	5月1日	//	動物の子育てと雌雄の対立
4	5月8日	塩田 浩平 (京都大学・理事)	性の決定メカニズムについて
5	5月15日	犬塚 典子 (女性研究者支援センター)	科学政策と男女共同参画
6	5月22日	瀬木 (西田) 恵里 (薬学研究科)	身体の性と脳の性 (1)
7	5月29日	//	身体の性と脳の性 (2) —ディスカッション—
8	6月5日	安枝 英俊 (工学研究科)	共働き夫婦の住まいの現在 (1)
9	6月12日	//	共働き夫婦の住まいの現在 (2)
10	6月19日	田中 雅一 (人文科学研究科)	ジェンダーと宗教
11	6月26日	速水 洋子 (東南アジア研究所)	ジェンダーと文化人類学
12	7月3日	犬塚 典子 (女性研究者支援センター)	ジェンダーと教育
13	7月10日	//	学生による報告
14	7月24日	伊藤 公雄 (文学研究科)	総合討論
15	7月31日	//	まとめ

全学共通科目 (前期) の「性差を考える—人文社会科学の視点から—」は、文学研究科 伊藤 公雄教授が、ヴィジュアルイメージ教材を多数用いて、メディア、人権問題、スポーツ、国際化などの社会的課題をジェンダー研究の視点から説明します。

全学共通科目 (後期) の「性差を考える—自然科学の視点から—」は、遺伝学的・生理学的・生物学的に女性あるいは男性であるという指標であるセックスについて、医学・理学などの分野の最先端の研究に基づいて複数の教員が講義を行います。



■ 全学共通科目「性差を科学する—自然科学の視点から—」

1	10月2日	オリエンテーション	
2	10月9日	森 哲 (理学研究科)	動物の行動：性淘汰と性的二型
3	10月16日	疋田 努 (理学研究科)	爬虫類の性と繁殖
4	10月23日	奥田 昇 (生態学研究センター)	魚類の性転換
5	10月30日	//	魚類における子育てと性役割
6	11月6日	林美里 (豊長類研究所)	比較認知科学：チンパンジーとヒトと性差
7	11月13日	野口 順子 (理学研究科)	性の起源と植物における性と性淘汰
8	11月20日	栗屋 智就 (医学部附属病院)	脳の発達と性差
9	11月27日	稲葉 カヨ (生命科学研究科)	免疫反応、免疫疾患から見た性差
10	12月4日	林 晶子 (医学研究科・集学的がん診療学・寄附講座)	女性に多い摂食障害について 医学的、医療人類学的視点から
11	12月11日	加藤 寿宏 (医学研究科)	子どもの発達と性差について —自閉症スペクトラム児を通して考える—
12	12月18日	小西 郁生 (医学研究科)	子宮頸癌からヒトの性の進化を探る
13	12月25日	菅沼 信彦 (医学研究科)	インターセックスの診断と治療—婦人科医の立場から—
14	1月8日	谷口 初美 (医学研究科)	看護学と性差
15	1月22日	伊藤 公雄 (文学研究科)	まとめ—性差を科学する

研究室での会話スキル

女性研究者支援センターでは、自己主張トレーニング講座を随時開催していますが、参加できない方にも講座のポイントなど知っていただくために、Webサイトに「研究室での会話スキル」のページを開設しました。研究室でのコミュニケーションの悩みを解決するために、ヒントになることをお伝えしています。

研究室の人間関係で『もやもや』して疲れてしまうことはありませんか？



女性研究者支援センターでは、2009年から「研究室での会話スキルを学ぶ」というタイトルで「自己主張トレーニング講座」を開講しています。毎回少人数のグループでそれぞれが研究室でのコミュニケーションに関して悩んでいる問題を出し合って、解決策を探っています。その際に力になるのが、自己主張

の考え方です。自己主張とは「自分の気持ちや考えを率直に、その場に合った適切な方法で表現する」ということです。

自己主張をするときに重要なポイントとして「YOU(あなた)メッセージではなく、I(私)メッセージで言う」ということがあります。たとえば研究室の飲み会でいつも片づけ役を押し付けられるのが不満に思っている場合に「なんでみんないつも私に片づけ役を押しつけて平気なのか？ひどい。」というは「YOUメッセージ」です。それに対して「Iメッセージ」では「いつも私が片づけ役をして当たり前だと思われると思うと嫌な気分がしています。そのため飲み会だと思つと憂鬱になる」などとなります。

この違いがわかるのでしょうか？「YOUメッセージ」だと、言われた方は、自分が悪くても非難されたように感じて反発してしまいがちです。それに対して「Iメッセージ」の場合は、自分たちが無自覚に片づけ役を押しつけていたことで相手を不快な気持ちにさせていたのだと相手の気持ちを受け入れやすいのです。何か相手に伝えようと思うときには「Iメッセージ」を心がけると自己主張しやすくなります。

そんなことはとても言えないし、言ったとしても聞いてもらえないと思うでしょうか。実際に言うとするば、誰にどういうタイミングで伝えるのかなどを考えることも重要です。次の項ではその点を考えてみましょう。

誰に伝える？

研究室で何か困っていること、不満に思っていることを何とかしようと考えたときに、誰に伝えたらいいでしょうか？

まず、研究室の構成員を思い浮かべてみましょう。教授、准教授、講師、助教、助手、ポスドク、博士課程の院生、修士課程の院生、学部生、秘書……。

あなたが相談したい・訴えたい内容や重要性に応じて、相談する・訴える相手を選ぶ必要があります。



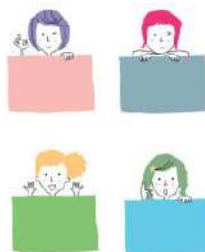
それほど深刻ではないのなら、同僚で、あなたとも親しく、話しやすい相手に愚痴のような感じで聞いてもらうのも有効です。ただしその人がおしゃべりな場合は、気をつけて。そんな場合は、研究室以外の人に話した方がいかもしれません。

愚痴を聞いてもらうというレベルではすまない、ということでしたら、最終的には研究室の責任者である教授に相談する必要があるかもしれません。何かを変更・決定する権限を持っている人でないと対処できない問題はありますから。

ただ、その教授が、いつも忙しくイライラしていて、あなたのことをなぜか気に入らないようで、相談しても当たり散らされるだけだったら……。まず、相談しやすい相手に、どのように教授に話したらいいのかが相談する、という方法が現実的かもしれません。

いずれにしても、まず相手がどういうタイプか、自分との関係性はどうか、などを考えた上で、誰に話するか考えるというのがポイントです。そんなこと当たり前でしょ、と思われる方もいるかもしれませんが、でも、案外、自分の周りのことは客観的に見えていない場合もありますよ。一度、研究室のメンバーを図に描いて、ながめてみてはいかがでしょうか。

どんなタイミングで切り出す？



急にモノを頼まれて、とっさに引き受けてしまったけれど、後からやっぱり断ればよかったなあ、と後悔することはありませんか？

例えば、なかなか手に入らない本を貸してほしいとか、研究室の当番を代わってほしいとか、ゼミの発表の順番を早めてほしいとか。

頼まれたときには、特に断る理由も見つからなくて「いいよ」と言ってしまった。でも本を貸してしまつたら、自分が見たいときに見れなくて困ることがあるかもしれない。当番を代わると自分の段取りがくるつてしまう。発表の順番が早くなつたら、準備が間に合わなくなるかもしれない。この時期忙しいのだけれど……。

コミュニケーションの悩みを解決するためのヒント

でも、一度は引き受けてしまったのだから、今さら取り消すわけにもいかない。自分が我慢すれば、ちょっと無理をすれば、何とかなるかも。

でも、やっぱり、嫌だなあ。何とか断れないかなあ。
 ・・・・このように思い悩むのだったら、思い切ってその気持ちを相手に伝えてみませんか？
 「この間のことだけちょっといいかな？」などと声をかけて、「頼まれた時は大丈夫だと思って引き受けただけ、後からゆっくり考えたら、やっぱりちょっとしんどいかなあと思うので、ナシにしてもらえないかな？」などと言ってみましょう。

あれこれと考えているうちにどんどん時間が経ってしまっていて、やっぱりどうしても無理だ！と断った時には直前になってしまう。そんないわゆる「ドタキャン」よりは、早めにスッキリ断った方が相手にとっても助かるものです。他の方法を考えたり、誰か別の人に頼んだり、ということをする時間も余裕もあるのですから。

自分の気持ちを大切に、早めに断ることができるようになると、自分にとっても相手にとっても気持ちのいい、風通しのいいコミュニケーションが取れるようになっていきます。そうは言ってもいきなりは難しいなあという方も多いと思います。その場合には、是非、自己主張トレーニングの講座を受けてみてください。

「相談することに」にマイナスイメージを持っているか？

研究室の中で自分がうまくやれていないなあと思ったときに、あなたはそれを誰かに相談できていますか？これまで、相手に伝えるときの言い方のスキルや、どんな人に話をするのか、どんなタイミングで切り出したらいいか、など考えてきました。でも、そもそも相談することに抵抗がある、そんなことくらい自分で解決すべきことなのではないか、など「相談すること」にマイナスイメージを持っている場合もあるかもしれません。

転職経験者が「仕事がスムーズにできていたわけではないのに、周りの上司や先輩などに相談してみようという発想がなかった。結果として『自分にこの仕事は向いていない』と思って転職してしまっただけ、後から考えてみると、もっと仕事の仕方などを素直に相談して教えてもらってもよかったのだなあと思った。」というように、当時を振り返る例もあります。

たとえば「ちょっと最近行き詰っているんですよ」「こういうときには先輩はどうして乗り越えたんですか？」など聞いてみるのはどうでしょうか。相談することで、相手にあなたの状況が伝わって、相手はあなたを理解しやすくなります。そして、相談された側は、自分は信頼されているのだな、とうれしく思うことも多いです。あなたの力になってくれるかもしれません。

ただ、相談したけれど、相手が不機嫌になって聞いてもらえなかった、という場合もあるかもしれません。残念ながら、こちらがいくら素直に自分の気持ちを伝えても、相手が聞く耳を持っていない場合は効果がないということも少なからずあるのです。そんな時には、「自分に問題があるのだろうか」とあまり自分を責め過ぎないことです。

一人で考えているとグルグルと考えがまわってしまっている糸口が見つからない場合でも、カウンセラーに話すことで整理がついていって自分なりの決断が下せるようになる、という経験をしている人はたくさんいます。研究室の中で、相談に乗ってもらえる人が見つからない場合は、学内の相談窓口を利用してみましょう。

(自己主張トレーニング講座：周藤由美子)

第4回 京都大学優秀女性研究者賞「たちはな賞」受賞者決定



第4回京都大学優秀女性研究者賞「たちはな賞」の受賞者が決まりました。表彰式と受賞者による研究発表を下記のとおり行います。皆様、ご参加ください。

日時 2012年3月2日(金) 16:00~17:45

場所 京都大学医学部芝蘭会館 稲盛ホール

<受賞者>
 学生部門

鈴木 咲衣 (理学研究科 博士後期課程 3年)

「普遍不変量を用いた絡み目の量子不変量の研究」

研究者部門

塩尻 かおり (次世代研究者育成センター 特定助教)

「植物揮発性物質が駆動する生態系生物間相互作用ネットワークの解明」

表彰式は、松本総長より、表彰状と記念楯が授与されます。

副賞として、(株)ワコール 安原代表取締役社長より、ワコール賞が授与されます。

連載：研究者になる！－第37回－

チンパンジーとともに

霊長類研究所・助教 林 美里

私が初めてチンパンジーと接したのは、学部1年生のときだった。臨床心理士を目指して教育学部に入ったのだが、ちょうど開講された新入生向けポケット・ゼミで、動物好きだったこともあってチンパンジー学集中実習を選択した。愛知県犬山市にある霊長類研究所に1週間滞在し、チンパンジー研究の実際を見るという内容だ。チンパンジーにヒトと近い部分があることを実感して興味をもった。

学部3年生のときに、アコム、クレオ、パルという3人のチンパンジーの子どもが誕生した。これを機に、チンパンジーの認知発達研究に参加することになった。母親に抱かれたチンパンジーの赤ちゃんはとてもかわいく、見ているだけで楽しかった。子どもたちが母親から離れて動き始めると、周りの人間もチンパンジーもすすんで面倒を見たがった。

それまでは母親の隣の部屋にきた子どもたちと一緒に遊ぶだけだったが、3歳頃からは勉強にも参加してもらった。積木をつむ、円形のカップをかさねる、というヒトの子どもの発達検査に使われるような対面課題をしてもらった。課題の後は、健康管理のために体温や体重も測る。全部終わると、母親のところに戻ってもよいし、気が向けば追いかけてこやくすぐり遊び、おんぶや肩車などで遊んでいくこともあった。かわいかった子どもたちも、5-6歳になるとやんちゃになり、よくけんかもした。11歳をこえた今では体重も同等になり、昔と違って一緒に遊んでくれることもなくなった。

研究所のチンパンジーだけでなく、本来の生息地でくらすチンパンジーの自然な姿を見るため、アフリカにも出かける。主な観察対象は、西アフリカ・ギニア共和国・ボソウ村周辺にすむ13人の野生チンパンジーたちだ。日本を出てパリを経由し、首都のコナクリに着くまでに約2日。首都では、調査許可をとったり日用品の買い出しをしたりで最低2日。首都からボソウ村までは、土埃の立つ悪路も通ってさらに約2日。片道だけで1週間近く余分にかかるので、調査期間を2週間とろうと思うと、1回の渡航が最低1か月になる。調査地では、朝暗いうちから起き、日が昇り始める6時半頃に出発して森に向かう。アフリカと言っても、森にいれば日中の暑さは気にならない。チンパンジーが木漏れ日の中でのんびり

昼寝をしたり、高い木の上で悠々と果物を食べたりしている姿を観察していると、とてもどかな気分になれる。たまに日本の忙しい生活を抜け出して、アフリカの森のゆったりした時間に身を置くのもいいものだ。



女性がよくアフリカなんかに行きますね、という声も聞こえるが、じつは野生霊長類の研究者は女性比較的多い。欧米で霊長類のフィールドワークを創めたのも女性だ。異郷の地で現地の人たちの協力を得て森に入り、普通はヒトを恐れるはずの野生霊長類に警戒心をといてもらい、言葉をもたない彼らの行動を地道に観察して、その奥の知性や心を探る。最新科学の大発見という派手さはないが、じっくり研究データを蓄積するという霊長類学の姿勢が、どちらかという女性向きなのかもしれない。アフリカ生活で女性ならではの不便があったり、男性から軽視されたりすることもある。それでも、意外においしいご飯や、電気のある街で徐々に冷えた飲み物を口にしたり、という小さなことに幸せを感じられる。また、とくに女性の同行者がいると、つっこみどころ満載のアフリカ生活は逆におもしろく、つねに笑いがたえない。女性ならではの視点や、楽しみ方がある。

私がなぜ研究者になったのか、と問われれば、チンパンジーがいたからとしか答えようがない。彼らのことをもっと知りたい、何とか彼のためにできることをしたい、と思つて研究者になる道を選んだ。今では研究所のチンパンジーたちも、10年以上の古株だと思つてか、それなりに私の言うことを聞いて仲良くしてくれる。視線や表情、しぐさで相互に意思疎通ができること、単純にうれしい気持ちになる。チンパンジー流の子どもの自主性を伸ばす子育て方針など、彼らが教えてくれたことも多い。チンパンジーの寿命は約50年といわれる。私が研究者になるきっかけを作ってくれた3人の子どもたちも、私自身も、これから出産・育児・老化とライフステージをかさねていこう。チンパンジーとともに生きる女性研究者の将来がどうなるか、乞うご期待。

Center for Women Researchers

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>